

## 書写の要素 字形…点画の組み立て方



山梨大学教授

宮澤 みやざわ

正明 ただあき

就学直後、文字の書き方の学習が始まると、子どもたちは、覚えてたての文字を一生懸命繰り返して書いています。その光景を見てみると、あたかも子どもたちの体内に音を立てて文字が吸収されていくかのように見えます。文字の骨格（字体）を習得した子どもたちは、やがて書き文字の基準としている整った字形にあこがれるようになり、このように書いてみたいと願うようになります。整った字形は読みやすく、見た目もすがすがしいので快感すら覚えます。これを自分の手で書けたらいいなと思うのは当然で、それは、生まれながらにもっている美的本能の芽生えともいえるでしょう。このような子どもたちの要求に応えるのが国語科書写の大きな使命といえます。

さて、整った字形とは具体的にどのような形を指すのでしょうか。

小学校の教科書は、全教科、「小学校学習指導要領」の

中・高校生、大学生にさまざまな種類の文字を提示して、字形の整い度、読みやすさの度合い、好感度などを調査すると、ほとんどが教科書体活字と書写教科書に示された書き文字を選択します。このことが証明するようになり、教科書体活字の字形や書写教科書の書き文字は、整った字形の代表と考えてよいでしょう。それだけに、両者は大きな責任も負っていることになります。

字形を整えて書くためには、さまざまな決まりがあります。平成十七年度版「書写」六年の40ページには、小学校書写で学習する全内容が一目でわかる構造図が掲載されています。



17年度版「書写」六年 P40 左下図

別表学年別漢字配当表の字形をもとにデザインされた教科書体活字によって印刷されています。教科書体活字は明朝体やゴシック体などとは異なり、終筆のはねや払い、筆押さえなどが毛筆による手書き風にデザインされていることから、文字の習得期にある小学生に用いられているのです。したがって、小学校の漢字指導は、教科書体活字の字形を標準として行われ、さらに、書写の教科書の書き文字教材もこれをもとに書かれているので、子どもたちにとってはこれらの文字が整った字形であり、読みやすい字形ということになります。

## 記念 記念 記念

教科書体活字

明朝体活字

ゴシック体活字

これによって字形を整える要素を整理しておきましょう。中段の「字形」には、字形を整える要素が四つ示されています。まず、その中の「点画の組み立て方」について考えてみましょう。

### 「点画の組み立て方」(点画相互の関係)

字形が完成する過程では、点画がいろいろな関係で組み立てられていきます。その関係が適切であるとき、字形は整いを見せることになります。

その関係は、次のように整理できます。

#### 点画の長短

##### ・ 一画強調と二対強調

最後の横画を長くする関係があります。また、「末」と「末」、「十」と「十」など、横画の長さによって文字を規定するものもあります。これらは、字形を整えるというよりも、文字の骨格である「字体」として扱われる画の長短といえます。字体については漢字指導で扱うことが多いのですが、書写においても、積極的に取り上げて注意を喚起したいものです。

では、書写における点画の長短は、どのような内容でしようか。次の「青春」の文字を見てください。整った字形に見えるでしょうか。

# 青春

「青」は、横画がほとんど同じ長さで、全体的にずんどうで物足りなさを感じさせ、スマートな字形には見えません。「青」のように横画がいくつか並んだ場合は、どれか一つを長く強調し、「一画強調」といいます。字形にメリハリを与えます。そうすると、不思議なもので字形は安定し、スマートに見えてきます。

横画の一画強調には、「千・女・母・古」などがあり、「王・生・牛・里・車・羊」などのように、横画が並ぶ場合は最下部の横画を長く、横画が多い「書・重・量」などは上部の横画を長く強調します。また、「寺・赤・青・黄・辛」などのように、独立性の高い部分が上下に分離できる場合は、上の部分にある横画を強調します。

このように、点画の長短にはさまざまな種類がありますが、「字形の主役は一つ、あるいは一対」ととらえて書くことです。三段跳びで「ホップ、ステップ、ジャンプ」とリズムをつけて跳ぶように、また、音楽の二拍子、三拍子などのリズムに強弱があるように、文字を書くうえでもリズム（書字リズム）といえる）が存在します。このリズムに乗りながら書くとは点画に長短が生じ、結果的に字形にまとまりや安定がもたらされるのだと考えてもよいでしょう。また、そのリズムは、文字によって縦のリズム、横のリズム、払いのリズムなどが存在しているようにです。

文字の長い画、大きな部分などは、書くうえで時間がかり（わずかではあります）が、次の画、部分に移る前に一呼吸置く必要がありそうです。このような部分は、音楽でいえば楽譜に見られる息継ぎや休止符、文章でいえば読点に相当すると考えられます。これをわたしは、「文字生成過程における休止点」と名付けています。

もし、それぞれの文字にある休止点の存在を知ることができれば、どこまで一気に書いて、どこで一呼吸を置かかといったリズムが理解できます。

千女王里  
書重寺幸青

一画強調は縦画にも見られます。「川・山・出・州」などは長さを揃えず、いずれか一つを長く書いて強調します。また、「大・走・春・夏」のように左右の払いが一対ある場合、「先・元・光」のように左払いと曲がりがある場合は、これらを字形の最大幅にします。「春」は三画目を強調すると左右の払いと主役の座を争うことになり、字形が落ち着きません。

川山  
大春元光

「羊」の文字で確認してみましょう。



「羊」は五画目を休止点と考えます。五画目まで一気に書いて一休みすると、自然に五画目を長く書くリズムが生じるようです。そこで一呼吸ついて、次に縦画に移るようになります。

先の「青春」も同じように考えてみましょう。「青」の上の部分で一呼吸と考えると、書き進めると、四画目が自然に長くなり、「春」も五画目を休止点と考えれば、三画目の横画は勢い短めとなって直ちに四画目、五画目に向かうはずですね。

このように、整った字形は、単に図形的な整いというだけではなく、書字リズムによって形成されるともいえるのではないのでしょうか。書字リズムを育み、生かすためには、一字一筆の考えで書くことが大切になります。特に、毛筆学習では、途中で墨をつけたら穂先を直したりしないで、一文字を書ききるようにすることが大切です。